小　平　西　の　き　ず　な

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. ２

（2012 年９月 27 日発行）　　発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL：　０４２－３４６－５６３９

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町１－８３０

（私たちの活動の紹介①）

高齢者と地域社会

小平市高齢クラブ富寿美会会長：渡辺　穂積

世はまさに高齢化の時代に入ってきました。テレビの画面でもこんなに大変なんだとばかりに胴上げの形から騎馬戦の形、そしてこれからは肩車と言った高齢者を支える形のイラストを皆さんも目にしたことがあると思う。

確かに医療制度や年金制度など数字から見るとその通りかと思いますが、私達の地域を見渡しても老々介護は当たり前、脳梗塞で倒れた息子さんを面倒みている 90 代のお母さんの例もある。さらに高齢者の一人住まい、高齢者だけの家庭、同居人がいても孤独な高齢者等々、実態は若い人に支えられているなどの楽観的状況ばかりではない。

そのような地域の高齢者の方々が現在のような希薄な近隣関係の中でどのようにして幸せな生活を営むことが出来るのか考えたときに高齢クラブの基本理念である「健康」・「奉仕」・「友愛」の精神で高齢クラブが係っていくことが最も大切であり、病弱な方や友達がいない方などにとって、その地域の高齢クラブが最も身近ではないかと思う（もちろん行政や民生委員・児童委員の皆さんと緊密な連携不可欠）。そして会員になることによって楽しい行事やイベントに参加してもらうことで顔が見えて人間関係が出来てくる。

年齢には関係なく心身共に元気で仕事の職場や、趣味等のクラブで外に出かけ仲間と群れることが出来る方は心配ないですが、地域では「支え・ 支えられ お互い様」だから、あとから高齢クラブとはどのようなことをやっているのかを記すが、会員になって自分自身が楽しむことも出来るし、その中で会をサポートして頂ければお互いに素晴らしいことだと思う。

私達の高齢クラブ「富寿美会」の行事は

１、誕生会　　年３回

２、バス旅行　①観光、果物狩りバス旅行、②親睦宿泊旅行、③初詣バス旅行

３、健歩会　年１～２回

４、カラオケクラブ　１～２回 / 月

輪投げクラブ・茶話会　１～２回 / 月

５、その他　地域のイベント行事に参加

≪参加例は下記の通り≫

(ｲ) 小学校の納涼祭・ファミリー運動会・もちつき大会

(ﾛ) 小学校の授業「昔遊び」・　小学校のＰＴＡの父母対象の料理教室

(ﾊ) 武蔵野美術大学映像学科の「卒業作品映画」のエキストラ出演（20 名）

(ﾆ) 白梅学園大学子ども学部家族・地域支援学科「小平西地区地域ネットワーク」

会の活動は、会員だけを対象に実施するのではなく地域に住んでいる方なら誰でも参加して貰えるような「憩いの場」を提供することとし、会員と一緒に行動することで絆が出来、地域に密着したものになっていけば良いのではないかと思う。そして高齢者だけで群れるのではなく、世代間交流も積極的に進めて孤独・孤立状態を無くしていければ幸いである。

（全国老人クラブ連合会より感謝状を受ける）

（私たちの活動の紹介②）

地域に根付くネットワークに期待

民生・児童委員：芳井　正彦

５月１２日は「民生委員・児童委員の日」である。１３日の日曜日には東京都の代表が新宿区内で啓発・普及のためのパレードを行った。小平でも１４日から１８日までの期間を市役所一階のロビーで、日頃の活動を写真展示し相談コーナーも設けた。約600 名の来場者があったが、担当に就いた印象は更なる啓発が必要だと感じた次第である。民生・児童委員を拝して一年六ヶ月、毎月何らかの行事・事業があり、場合によってはほぼ毎日数週間に及ぶ活動もあり、結構大変だなというのが実感である。

今年の年頭から孤立死が連続して発覚し問題になった。表面には現れてないが年間で１万４千人以上にのぼるという。つい最近では生活保護受給費問題が話題になった。更に児童虐待問題も深刻である。これらは全て民生･児童委員にかかわる問題である。地域に何らかの貢献が出来ればとお引き受けしたわけであるが、民生・児童委員は地域の問題に対してスペシャリストを目指すくらいの意気込みがあってもいいのではないかと思っている。

しかし､現実は担当地域の範囲は広く戸数も多く、そんなことは理想ではあっても不可能なとんでもない話であるとの声が聞こえそうだが、実現へ近づくアプローチはある。それは今回の「小平西地区地域ネットワーク」に連なる１５０を超える個人・各種団体の皆さん方と連携を取り合うことである。特に自治会・町内会との連携は一番大事であり鍵だと思っている。

活発に活動を行っている地域もあればそうでない地域もある。自治会のないところもある。自治会の成り立ちを考えると、街灯がない・道路が舗装されてない等々からはじまり、それらのインフラが整備されるともう自治会を解散しようということも耳にする。この自治会に対する行政の考え方を伺いたいと思っている。

３・１１大震災のあと「地域の絆」が見直されているが、数年前に「ご近所の底力」を取り上げられたことがある。が、残念ながら今はその「地域力」の低下は否定できないと言われ、その背景には人間関係の希薄化が指摘されている。内閣府の調査によると近隣住民との行き来が殆どない人の割合は４割弱。「あまり行き来していない」を含めると６割に上るという。一方で、多くの人は「困った時は住民と助け合いたい」と考えており、「地域の人とのつながりを持ちたくない」と言う人はごく少数に過ぎなかったと発表している。イザと言う時に力を発揮するためには日頃の交流が大切である。

予想される大震災への防災・減災への備えに、「自助・共助・公助」といわれる共助の最小の単位が地域である。「顔が見える地域づくり」の地域を、深い思いやりと信頼で結ばれた地域にするために「小平西地区地域ネットワーク」が大きな役割を果たすものと期待したい。

最後に、現代社会に最も要請される「人と人との絆づくり」をわが地域に築こうという、素晴らしい目的とビジョンを掲げてスタートしたネットワークである。成功するか否かの要は関係者の熱意と地域の人々が理解をし、広く支持していただくことが大事なことではないかと思う。微力ながらお役にたてるよう、お手伝いさせていただこうと思っている。

「小平西のきずな」を初めて読まれる方へ：

このネットワークは､今年 3 月 17 日に小平市の西地域のさまざまな NPO、ボランティア団体、民生・児童委員会、町内会、大学・学校、市役所などに関係する方々が「お互いの顔が見える助け合う地域つくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。この「小平のきずな」はそのネットワークのニュースです。

市民の皆さん、いっしょに活動に参加しませんか？

6月12日（火）　第4ブロックのフィールド・ワーク報告

（白梅学園大学：森山・杉本ゼミ）
（案内役：渡辺　穂積）

1．　ＮＰＯ法人「オリーブ」

次の４つの事業を行う

●通所介護（介護保険該当者）（送迎つき――入浴、趣味活動）　●訪問介護生活支援

●介護計画相談　　●福祉用具の貸与・販売

通所介護の現在登録者は 67 人、1 日平均 20 名が利用。週 2~3 回利用する人もいる。

介護認定１～３の人が多く利用する。

2．　小川公民館

市内には 11 の公民館がある。

昔、玉川上水と野火止用水の建設後、小川村が開拓され、米や小麦が栽培されてウドンが作られた。中でも“糧（かて）うどん”が有名。

昔からよく「向こう三軒両隣」と言われる。土曜日は「ゆうゆう」という行事が組まれる。

小川は徳川時代宿場町で、各家の屋号が昔の商売の名で呼ばれている。例：油屋、紺屋

3．　小平一小

明治 6 年創立で、来年 140 周年を迎える。小平で最初にできた小学校。小平市全体では 19 の小学校の内、“ナンバー・スクール”は 15 小まで、8 校の中学校のうちナンバー・スクールは 6 中まである。

青少対（卒業生、教員、地域の保護者などで構成）が 3 大イベント（もちつき、盆踊り、運動会）を行う。

4．「うどん弥・根古坂」――“糧（かて）うどん”

小平は、昔から川がなく水の乏しい所で、田んぼはほとんどなく、主にヒエ・アワ・小麦などの穀類が耕作されていた。正月や、彼岸、盆、その他人寄せには、畑で収穫した地粉で手打うどんを打つ習慣があった。

（写真は「ふるさと村」の手打ちうどん作り）

手打うどんは、貴重な食文化として保存していこうという活動が、故・加藤有次国学院大学名誉教授を中心に展開され、今日に受け継がれている。

小平では、武蔵野手打うどん保存普及会が JA 東京むさしの協力により、小平産の地粉を使って「小平糧うどん」を毎週土曜・日曜日および祝日の昼食時に、ふるさと村において 1 日 50 食を限定に販売し（1 食 500 円）、まぼろしの味「小平糧うどん」を広く知ってもらう活動を行っている。（この店は昨年 12 月 13 日に開店）。

5．　「ゆうやけ子どもクラブ」

知的障がいのある子ども（小学生から高校生）を対象にして、放課後クラブ、夏・冬休みの活動を行う民間の通所施設。1978 年設立。現在 27 人が通所している。2001 年 5 月には「ゆうやけ第 2 子どもクラブ」も開設。2 つ合わせて常勤職員 7 人・非常勤約 20 人が勤めている。隣は小川保育園。

6．　水車通り

昔、鷹の台駅前通りの突き当りの米屋に米をついていた水車があり、それからその通りが「水車通り」と呼ばれている。

ネットワークが活かされた今年の祭り

障害者福祉センター：内田　伸

９月９日（日）に「第 28 回センターまつり」を開催し、当日は天気にも恵まれ、来場者、協力団体、ボランティア等を含め、約 600 人の方々がセンターまつりに参加し、大盛況のうち幕を閉じることができました。

今年のまつりの特徴は、西地区地域ネットワークの取り組みが活かされ、初めて白梅学園大学の学生さんが「やきとり」を出店したり、小川西町公民館から紹介されたプチ・フラダンスサークル「ＫＤ・フラ　プアリリア」が出演してくれるなどこれまで以上に地域の広がりを構築することができたことです。皆さん、本当にありがとうございました。

今後も、このようつながりを一つひとつ積み上げて関係性の強いネットワークを構築できたら、と考えています。

障がいのある方々が地域で安心して生活するということは、特別なことではありません。障がいのあるなしに関係なく、相互に交流しお互いを知ることから、地域の関係性が生まれると思います。来年もよろしくお願いします。

島と小平の子どもたちの会」に参加して

家族・地域支援学科２年　向笠　聡（むかさ・さとる）

「福島と小平の子どもたちの会」の参加団体の一つとなり、各団体と共同で開催できたことを心から喜ばしく思います。白梅は５月３日～５月６日の内、４日と５日の小平市中央公園雑木林での外遊びに参加することになり、どういったことをやるのか話し合った結果、「段ボールキャタピラ」と「しっぽとり」をやることに決まりました。

４ 日に段ボールキャタピラ作りを行う予定でしたが、雨が降ってしまい、体育館の柔道場に移動しての活動になりました。柔道場内では、段ボールに絵を描く作業のみとなり、完成させることはできませんでしたが、絵を描くという作業自体は楽しんでくれたようです。その作業以外では、学生が福島の子どもを相手にプロレスごっこのような事をし、体を張って対応していました。福島の子どもたちは、震災後に出来なくなっていたであろう「思いっきり体を動かして遊ぶ」ということが出来たと思います。子どもたちからの容赦ない攻撃に学生は男女問わずへとへとになりました。

５日に前もって学生が段ボールキャタピラを作り、すぐに遊べる状態にしました。完成した段ボールキャタピラを使ってレースをし、福島の子ども、小平の子ども問わず大盛り上がりでした。その後に行なった「しっぽとり」も決められた枠の中で駆け回り、参加した子どもも学生もみんなで楽しむ事が出来ました。

（写真は中央公園でのハンモック遊び）

今回のプロジェクトを通じて多くの団体と「つながり」を作ることができ、「福島と小平の子どもたちの会」を通じて「小平ＪＡＭキッズ祭り」への参加や「小平市中央公民館　絆づくりプロジェクト　シルバー大学」と協力することができたりと、新しい取り組みをすることができました。各団体の方々から「学生の存在が大きかった」という言葉をいただき、白梅は一つの大きな役割を担うことができたのではないかと感じました。

今回のプロジェクトに誘ってくださった「災害ボランティアネットワーク・チーム小平」をはじめ各団体、協力してくださった白梅学園大学の教員の皆様、共に参加してくれた学生等の全ての方々に心から感謝いたします。

世代を超えた交流――あそぼうかい

子ども学科３年　　岩本　草平

「あそぼうかい」とは、学生が白梅学園周辺地域に住む親子、高齢者を白梅学園のホールに呼び、学生が企画した「遊び」を通して交流することができる広場です。親子や高齢者、学生など毎回200人を超える多くの方が参加しています。あそぼうかいは、地域の方が気軽に遊びに来られる「出会いの場」、「再開の場」、「交流の場」であると思います。

6月30日（金）のあそぼうかいでは、子どもたちは学生の手作り遊具で思いっきり遊びました。普段ふれあう機会が少ない学生と遊ぶことは新鮮であり子どもたちは目を輝かせていました。保護者の方は、子どもと一緒に折り紙をしたり金魚つりをしたりして楽しそうに遊んでいました。この様子を見て私は、親子で一緒に遊ぶことがとても大切なのだと感じました。

保護者の方からは、「子どもが外で遊ぶには多くの心配がある。室内の広い空間や家にはないおもちゃがあるので安心して遊ぶことができ嬉しい。」、「子どもは親を離れて学生と遊ぶので、子どもを客観的に見ることができる。」、「何よりも子どもたちがのびのび遊でているからこそ、お母さん同士のびのびと話すことができる。」などの感想を頂きました。

あそぼうかいには親子だけでなく多くの高齢者が遊びに来ます。世代を超えた交流ができるように工夫した結果、お手玉が得意なおばあちゃんが子どもに技を教えて一緒に遊ぶ様子が見られました。また、高齢者の方が赤ちゃんにふれあう様子があり、赤ちゃんを見て「かわいいね」と言い嬉しそうに笑顔を浮かべていました。他にも、高齢者の方から「あそぼうかいに参加すれば以前通っていたデイサービスの友達と会うことができる。」という感想を頂きました。

一方、現在「広場」を本当に必要としている親子つまり育児に不安を抱え誰にも頼ることができない人が参加できていない、参加しても友達やネットワークがなかなか作れないということが課題であると感じます。地域のニーズを知り、あそぼうかいとして何ができるかを模索することが必要だと感じています。

フィールド・ワーク報告

家族・地域支援学科３年　伊藤　涼

6月12日に、鷹の台駅周辺（上水新町３丁目）のフィールド・ワークを行いました。雨の日でした。岩井洋さん、自治会長婦人の吉田さんという、二人の方が案内役を引き受けてくださいました。当日は13時に、鷹の台駅を出て左手にまっすぐ進んだところにある観光案内版の前で待ち合わせ、そこからスタート。

岩井さんには、白梅学園大学とは反対方向の、僕が行ったことのない住宅地エリアを案内していただきました。公園所有者の変遷や、一昔前の、住宅地でのガス事情など、興味深い話がたくさん聞けました。最後は岩井さんがご自宅に招待してくださり、梅こぶ茶をいただきました。とても美味しかったです。

今回のフィールド・ワークで感じたことは自分が行き馴染んだ駅や町、その場所のことを、知っていると思っていても意外と知らないものなのではないか、ということです。たとえば鷹の台――僕は学校が鷹の台にあってそこに通い続けていても、僕がよく知っているのは通学に使う路だけであって、町のことはほとんど何も知りませんでした。3年間も駅の改札を通って、小平に訪れ続けているのにです。きっと、決まりきった毎日の路からそれて、違うところを歩いてみない限りは、その町を知っているとは言えないのだと思います。

岩井さんに案内された場所は、僕が普段駅から向かう方向とは反対で、こういう機会がなければ今後も知らないところだったと思います。初めて見た住宅街、公園、マンホールなど、色々なものから小平の歴史を学びました。そうなると、これまで見えてこなかった部分が見えてくるようで、なんだか新鮮な気持ちで見慣れた景色を見ることができる気がします。

そういった意味で、今回のフィールド・ワークは、とても有意義だったと思いました。

鷹の台近辺フィールド・ワークを体験して

家族・地域支援学科　３年　大久保糸織

８月 10 日、とても暑く日差しが強かった。午前中は、小平西ネットの第４ブロック世話人の桜田誠さんに、上水公園から鷹の台駅方面へと、玉川上水の道を案内して頂いた。

玉川上水はもう２年以上も通学路として通っていた道だったが、知らないことがたくさんあった。江戸時代に参勤交代などで水が必要だったので作られたと聞いて、こんなに長い上水路をそんな昔に造ったのかと思うとすごく驚いた。また自然が豊かなのでたくさんの虫、鳥、草花を見ることができた。日差しが強かったが木陰は涼しく体感温度は全然違うように感じた。帰り道のコンクリートの道がとても暑く感じた。

午後からは、同じ第４ブロック世話人の細江卓朗さんの案内で、地域包括センターけやき（出張所）を訪問し、その後、NPO 法人第２こだまに行きデーサービスの利用者、職員の方々と交流した。ゼミ員８名で準備をしたハンドベルと歌はとても練習が足りているとは言えなく不安だったが、笑顔で拍手を下さったり一緒に歌を歌ってもらい、すごくうれしかった。時間は短かったが充実したひとときを過ごせたと思う。

そのあと小平市中央公園に行き、細江さん持参のスイカを頂いた。ここは東京なのだろうかと思うくらいの自然の中で食べるスイカはとてもおいしかった。公園をぬける道には蝉が土の中から出てきた跡が無数にあり木々から蝉の声が聞こえ、この自然を守っていくことは大変だと思うがこれからもこんな場所が残ってほしいと思った。

最後にふれあい下水道館にいった。ここは日本で唯一実際の下水道の中に入れるということで小学生の夏休みの自由研究などにもってこいとのことだった。施設はまだ新しく地下５階が下水道に入れる階になっていた。すこし匂いがきつくひんやりとした雰囲気に少しこわいと思ってしまった。私は暗闇や水が苦手なのでやはり下水道の中はすごく怖かった。しかしこの管が私たちのくらしと大きくかかわっているのは確かなのでしっかりと見学した。他の階には昔の下水の仕組み、歴史がわかりやすく展示してありすごく面白かった。また井戸を掘る技術を発展途上国や水が少ない地域のために教えていることを知り深く感心した。

（ハンドベルが終わって…。ところで、もう「クリスマスに演奏を」の依頼がありました！）。

盛会！　第１回コミュニティ・カフェ

家族・地域支援学科３年　　辻原　晃平

６月２６日火曜日、第一回の「コミュニティ・カフェ」が無事に終了いたしました。「カフェ」ではありますが、今回は企画を取り入れ、活動的な内容にしました。

特に、「小平よさこい」は大きな反響をいただきました。よさこいというと高知県のよさこい祭りで知られるとても激しい踊りがイメージされますが、小平よさこいは鳴子を用い日本舞踊のイメージを踏襲したところで共通点を持ちながらも、高齢者をはじめとして様々な方に楽しんでもらえるよう複雑で激しい動きを取り払うなど改良が加えられています。

当日、コミュニティ・カフェ会場では多くの高齢者、学生の方々が盛り上がりました。私は会場外で受付を担当していましたが、掛け声や鳴子の音がとても響き渡り、カフェといえないほどに白熱しているのではないかと感じました。

他にも高齢者の方々になじみの深い音楽を楽しむための企画も用意しました。手話なども用い、昔なつかしの音楽を皆様で共有していただけたのではないでしょうか。短い時間ではありましたが、全体を通し１００名以上の方々でにぎわっており、地域の皆様で交流していただけました。その際ご記入していただいたアンケートでも、参考になる情報が多数あり、今後の世代間交流の形、地域交流の形としての参考になりそうです。

「認知症の家族の会」から学ぶ

家族・地域支援学科３年　八代　理沙

家族・地域支援学科専門ゼミ「関谷ゼミ」では2012年の活動として、「小平わかばの会（認知症の当事者と家族の会）」のご協力を得て、市内の会員さんへインタビューを行っています。ご家族の立場から介護の苦労をお聞きすることと、ご家族から利用者さんのこれまでの生活を伺うにつけ、利用者をよりよく理解することができ、介護に生かすことが大いにあると考えます。

ある方は、義理の両親と配偶者の３人を介護され、介護保険サービスもない時代であり、自分の健康を害することもあったとのことです。夜間の徘徊につきあったり、眠れないことが一番辛かったとおっしゃいました。朝、デイサービスの職員が笑顔で迎えてくれると、その笑顔に救われたこともあったそうです。またデイサービス利用者の家族だけで自由に話ができる場を設けてもらえたことも助かったと言われました。現在は介護のかたわら配偶者の方とともに小学校の「ふれあいタイム」にも参加され、ご主人様は囲碁を、奥様は詩吟を教えておられるとのことです。

介護とは他人の世話になるだけでなく、これまでの経験や趣味活動を通じて社会貢献し自立支援することであると、学ぶことが多くありました。

施設介護の職員には休みがありますが、在宅介護は24時間・365日休みがないことは過酷な現実です。介護には逃げ場が必要で、家庭を離れての出会いが支えになることが理解できました。今後も地域のネットワークを生かしたふれあい活動の重要性を実感し、介護職としての学習に生かしていきたいです。

盛り上がった一小の納涼祭

白梅学園大学研究員・奈良勝行

7月21日（土）午後4時から7時半まで小平第一小校庭で一小青少対主催の「納涼祭」が開かれた。これには一小の教員とＰＴＡが協力した。青少対の３大イベントは「納涼祭」、ファミリー運動会、餅つき大会である。

当日は曇天でうすら寒く、納涼祭の踊りにとってはもってこいの天候。昨年納涼祭をしたが、盆踊りをする人が少なく盛り上がりに欠けたが、今年は事前に地域の高齢者クラブなどが中心となって練習を２回ほど実施。その人たちがまず踊りの先頭を切り、これが功を奏して、見よう見まねで老いも若きも参加者が次々に踊りに参加、輪が２重、３重に広がり、昨年とは比べようもないほどに盛り上がった。

学校の放送部の選曲の良さが光った。盆踊りの“古典的”３曲が続いた後、マルモの曲「マルマルモリモリ」が流れたとたんにピンクの浴衣の輪ができ、４～５歳の子どものノリノリタイムの出現となった。

特に今年は白梅学園大学の学生が積極的に踊りに参加、周りの人たちを驚かせた。東京音頭、小平音頭、炭坑節などの“伝統的”なものから“よさこい節”、Under the Seaなど若者向きの曲、“どらえもん”などが次々に流され、ゆかた姿の高齢者が速いテンポの曲に合わせて踊る姿が印象的だった。中には汗をかく人の姿も。

うどん、焼きトウモロコシ、綿あめ、ヨウヨウすくい、ボールすくい、かき氷、生ビールなど10数種の屋台がグランド一杯に展開し、ウドンやかき氷のブースには長蛇の列ができた。

渡辺穂積さんによると「参加者の数はいろいろ出入りがあるが、おそらく1,000人を超えています。小平の小学校の納涼祭のなかでは一番の盛り上がりでしょう」。夏休みに入って最初の土曜日の大きなイベントでした。

“コダレンジャー”も登場！（一小納涼祭）

世代間交流の典型？

（学生の踊りが大好評！）

9月20日（木）「世話人会」報告

（文責：奈良・井上）

当日は世話人12人、白梅学園担当者10人、市役所から2人とこれまで最高の24人の方が参加しました。簡潔に会議の模様を報告します。

1．7~9月の動き

① 7月21日（土）一小の青少対「納涼祭」学生15人参加
十二小夏祭りに学生数人参加

② 8月8日（水）大学で「世代間交流（浴衣）」ミーティング。学生と第2こだまやオリーブの高齢者などと交流

③ 8月10日（金）学生のフィールド・ワーク（第4ブロック世話人がガイド）

④ 8月20日（月）中島町地域センター夏まつり

⑤ 9月9日（日）障害者福祉センター祭り

2．今後の予定

① 第1ブロック…10月13～14日「小川西町公民館祭り」
10月28日「十三小青少対まつり」

② 第2ブロック…12月1日「上宿小青少対まつり」
11月4日「十二小楽縁祭（青少対）」

③ 第3ブロック…10月20～21日「白梅学園祭」

④ 第4ブロック…10月27日「一小ファミリー運動会（青少対）」

3．地域コミュニティ（たまり場）の設置

小川公民館に近いたかの街道沿いのアパート「さつき荘」の1室の契約…今後第4ブロックの世話人会で利用の仕方などを協議します。

4．広報活動

①メーリングリスト（ML）

今後全体のMLは一斉送信方式（BCC）でします。

運営ML：nishinet-unei@shiraume.ac.jp

地域ML：KDRnishi-net@shiraume.ac.jp

② 広報紙「小平のきずな・第2号」

9月27日（木）に発行し、「懇談会」出席の皆さんに地域への配布に協力を依頼する。

5．白梅学園祭（別項）

6．市制施行50周年記念事業

① 10月6日（土）「市民活動まちづくりシンポジウム」（別項）
汐見学長が講演をする予定なのでぜひ参加してください。

② 「新こだいら音頭」の制作と普及
（地域文化課長の話）

「これまで数10年にわたって市民に親しまれてきた『こだいら音頭』に代わって、市制施行50周年を記念して最近「新こだいら音頭」を制作した。CDも作成した。10月20日（土）午後、ルネこだいらで開かれる「地域伝統芸能大会」の中でお披露目され、夜6時ころから小平駅南口ロータリーの仮設舞台でデビューされる予定。今後は市内の小中学校や商店会にCDを配って普及を図りたい。DVDも作成し市民の間に広く定着させていきたい。今日出席された世話人の方々にも宣伝・普及への協力をお願いしたい」

7．その他

① 今後の各担当地区の学生の活動への参加の仕方

② ネットワークへ未参加の市民への働きかけ方

など

小平市制施行５０周年記念事業

「市民活動まちづくりシンポジウム」のご案内

みんなで創る～「ずっと住みたいまち」小平～

日時：１０月６日（土）１２：３０～１６：３０

場所：小平市福祉会館

講演１「私からはじまるまちづくり」
大阪ボランティア協会常務理事　早瀬昇さん
講演２「多世代がいきいき暮らすまちづくり」
白梅学園大学学長　汐見稔幸さん

講演後２つの分科会が開催されます。

参加費：無料　定員：300 名（申込み不要、当日先着順）

主　催：市民活動まちづくりシンポジウム実行委員会、小平市

講師の早瀬昇さんは、ボランティア業界では草分けの著名な方で、汐見先生はご承知の通り小平市の白梅学園大学の学長であり「子育ては高齢者や障害者も含めて地域ぐるみで行なう」との考えをお持ちの方です。

講演を聞き、更に住みよい小平の街づくりを一緒に考えられれば、と思っております。
ご友人などお誘い合わせの上、皆さまのご参加をお待ちしております。

＊　　＊　　＊

50 周年記念関連の行事で中央公民館において小平市の昔懐かしい写真を展示します。

（昭和 37 年ころの青梅街道駅周辺）

ネットワーク担当者一覧

ブロック	世話人	教職員
1	西　克彦・布　昭子	山路・瀧口・井上
2	芳井正彦・足立隆子	関谷・土川
3	石川貞子・久保田　進 穂積健児	草野・西方・牧野
4	渡辺穂積・萩谷洋子 福井正徳・桜田　誠 細江卓郎	森山・杉本・瀧口眞
全体的に		長谷川・成田、 吉村・　奈良

西地域ネットワークの団体のイベント・カレンダー

（注：イベントの詳細は各団体に照会してください）

月	日	曜	イベント名	会　場
10	6	土	市民活動まちづくりシンポ	福祉会館
	7	日	影絵の会	中央公園林
			市民スポーツまつり	中央公園グラウンド／体育館
			わいわいバザール	障害者能力開発校
	8	月	わいわいバザール	（同上）
	13	土	小川西町公民館まつり	（同公民館）
	14	日	（同上）	（同上）
			自由遊びの会	中央公園林
	20	土	幻燈会（どんぐりの会）	中央公園林
			白梅学園祭	白梅学園
			市制施行 50 周年記念式典	ルネこだいら
			市民まつり前夜祭	小平駅前ロータリー
10	21	日	白梅学園祭	白梅学園
			小平市民まつり	アカシヤ通り
	26	金	ムサビ祭	武蔵野美術大学
	27	土	ムサビ祭	武蔵野美術大学
			小平一小ファミリー運動会	小平一小
	28	日	ムサビ祭	武蔵野美術大学
			ＮＰＯフェスタ	小川元気村
			十三小青少対まつり	小平十三小
11	4	日	十二小楽縁祭［青少対］	小平十二小
	8	木	（ネットワーク世話人会）	白梅学園大学
	10	土	小川公民館まつり	同公民館
	11	日	（同上）	（同上）
	18	日	自由遊びの会	キャンプ場／きつねっぱら
	22	木	（ネットワーク懇談会）	白梅学園大学
12	1	土	上宿まつり（青少対）	上宿小

白梅学園祭の企画　（瀧口　優・森山千賀子）

テーマ：

「地域につながる白梅学園大学と短期大学の過去･現在･未来」

1．日時：　１０月２０日（土）９時～１６時

２１日（日）９時～１６時

2．会場：白梅学園Ｉ棟２３教室

3．展示内容

①白梅学園のあゆみ（写真から）

白梅学園が杉並から小平の地に移転してから今日までのあゆみを簡単に写真で紹介します。

②小平西地区地域写真展示

府中街道の西側の小平西地区地域ネットワーク関連地域の公的な施設などの写真を今日の姿で紹介します。

③小平西地区における白梅学園と学生の活動

白梅学園大学･短期大学は地域との結びつきを大事にしてきましたが、特に多くの学生が地域に関わっています。その様子を紹介します。

④小平西地区地域ネットワークの紹介

昨年夏から準備をはじめた小平西地区地域ネットワークとは何か、どんなことに取り組んでいるのかを紹介します。「顔の見える結びつき」をテーマに、動き出して半年、この白梅祭でも顔の見える関係を作りたい。

⑤白梅学園の将来と地域

「地域にねざす」ことが白梅学園の基本的な姿勢です。この思いを将来の地域にどのようにつなげていくのか、それを地域の声から学びたい（小平市 50 周年記念事業と連帯して）

＊　＊　＊

［源ゼミの企画］（同じ会場で展示します）

私たちは、「子どもの最善の利益」をテーマに、保育の環境構成について勉強しています。実習園にもご協力頂き、どのような玩具が使用されているかを調査しました。保育の歴史や文献も合わせて、子どもたちにとって、どのような環境づくりを行えばよいのかを考えています。中間発表ですので、至らない点があると思いますが、ご覧いただければさいわいです。

また、被災地の保育園へ手作り玩具を寄付したいと考えております。当日は手作り玩具コーナーにて、簡単に作れる玩具作りにご協力頂ければと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

当日大勢の市民の皆さまのご参加をお待ちします！

投稿募集：

このニュースレターは皆さんといっしょに作るものです。ぜひイベント情報などの原稿をお寄せください！　⇒　email:　ever.onward.nara@roma.ocn.ne.jp 奈良まで。

編集後記：

やっと第 2 号の発行にこぎつけました。皆さんのご協力に感謝します。秋らしい天候になってきましたね。皆さんご自愛ください！　**（N）**